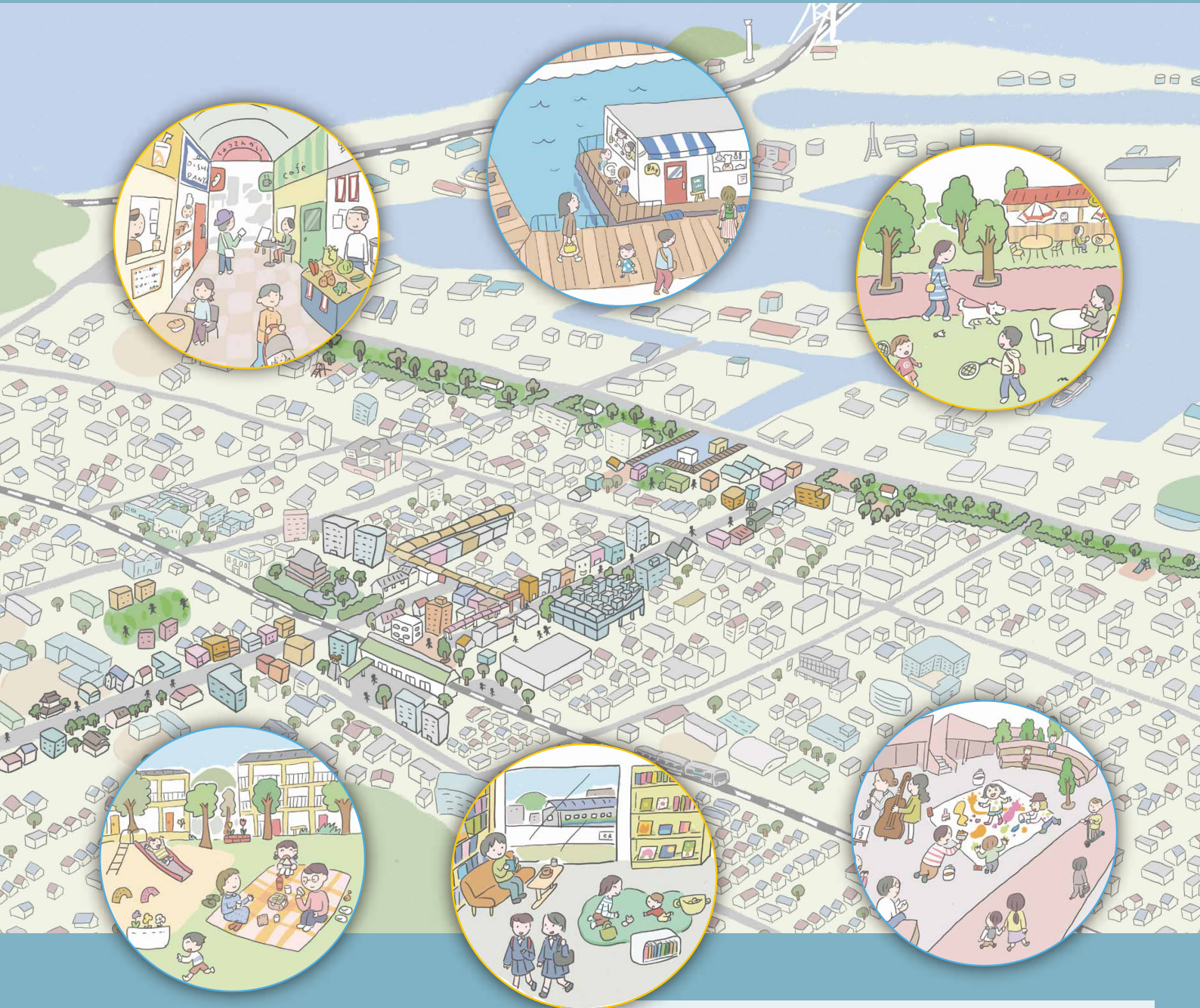


みんなの“ココチよさ”がかなうまち

～まちをひらき、未来をひらく～



坂出市
Sakaide City

坂出駅周辺再整備基本構想とは

本構想は、JR坂出駅を中心とする中心市街地におけるまちづくりの方向性を示すことで、本市が抱える地域課題の解決と本市がめざすまちづくりの将来像の実現につなげるものです。

まちづくりのビジョンとしては、今後、暮らしの満足度を向上させることで、「働くまち」からイメージの転換を図り、「働くまち」と「住むまち」が両立できるまちづくりをめざしています。

そのため、中心市街地においては、子育て世代をはじめ多様な世代が日常的に集い交流し、幸せを実感できるような居場所づくりや、居心地の良い歩きたくなるウォーカブルなまちづくりを積極的に展開していきます。

【重点地区①】 坂出駅前エリア
Station Gate

子育て世代をはじめ学生や来訪者を含めた全ての人にとって「まちのリビング」と呼べる居場所とすることで、
中心市街地再生を牽引する場



- 「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の創造
- 交通結節点機能をいかし、みんなが集まれる中心市街地の拠点機能
- 高校生が放課後を過ごすことができる場の創出
- 市外から電車でアクセスする人にとっての玄関・ガイダンス機能
- 日常と非日常でにぎわい、利用しやすい駅前空間の創出
- 駅前にふさわしく必要な都市機能の創出

【重点地区②-1】 坂出緩衝緑地エリア
Community Gate

豊かな自然環境と長大な空間をいかしながら、
多様な世代が集い、交流する市民の
活動拠点を創出する場



- 住宅地に近い中心市街地に位置する豊かな緑をいかした憩いの場の創出
- 長大な空間をいかした連続性や多様な魅力を持つ場の創出
- 車によるアクセス利便性の高さをいかした中心市街地への玄関機能
- 交流人口の増加をいかした坂出の魅力発信
- 多様な世代が日常的に集い、交流する市民の活動拠点としての活用による愛着と誇りの醸成

【重点地区②-2】 西運河入船エリア
Port Gate

水辺空間の活用により、魅力的な場を創出し、
港町坂出を発信する場



- 貴重な水辺をいかした親水空間の創出
- 島しょ部とのつながりを含めた港町坂出の発信と誇りの醸成
- 海の玄関としてネットワークをいかした他の港との連携
- 坂出緩衝緑地エリアと連携した中心市街地への玄関機能

みんなの“ココチよさ”がかなうまち

～まちをひらき、未来をひらく～

中心市街地再生コンセプト

心地よく過ごせる「市民の居場所」づくり

市民や市内で過ごす人が集まり、くつろぎ、交流することのできる市民の居場所となるような場づくりをおこないます。

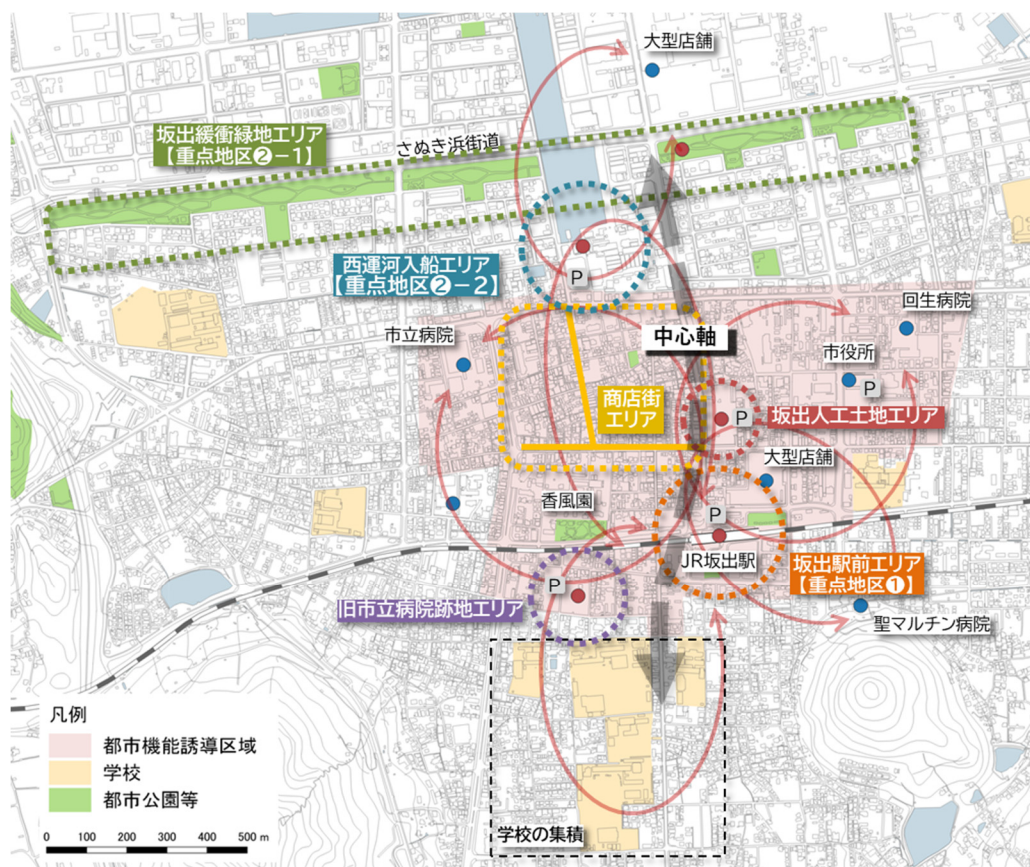
「歩いて楽しいまち」の実現

歩行者中心の歩いて楽しいまちを実現することで人々の滞在時間を増加させ、人・もの・ことと出会う機会を創出します。また、人々がまちを回遊することで、各所で生み出されたにぎわいをまち全体に波及させていきます。

「市民との共創」によるまちづくりの推進

市民や民間との共創により、持続可能なまちづくりを実現することで、まちの価値向上に努めるとともに、坂出への愛着とコミュニティ、誇りを醸成し、子育て世代や若者が住み続けたいまちをめざします。

中心市街地再生のイメージ



2つの重点地区を定め、魅力を創出し、
中心軸によってつながりを強化することで、市街地再生の原動力とする

商店街エリア
Challenge Gate

市民や民間主導のチャレンジにより
小さな居場所やにぎわいを創出し、
各エリアのつながりを生み出す場



- 居心地の良い店舗等、民間主導により居場所を創出
- 空き店舗や空き地を活用したチャレンジの誘発
- 滞留空間やにぎわいの連続を生み出すことで各エリアをつなぎ、回遊性を創出
- イベント等をきっかけとするにぎわいづくりと機運醸成
- 利便性をいかした居住空間の創出

坂出人工土地エリア
Culture Gate

市民ホールを核とした文化的活動拠点とし、
人と文化の交流と創造の場



- 市民ホールを核とし、文化活動を身近に感じられる場の創出
- 街路沿いの店舗や交差点の広場を活用した滞留空間の創出
- 建築的価値をいかし、市民が誇れる場所としての愛着と誇りの醸成
- 利便性と建築空間をいかし、市外からの来訪者も見据えた展開

旧市立病院跡地エリア
Future Gate

市民が気軽に過ごせる場を創出し、
ゆとりを生み出し、市民が成長できる場



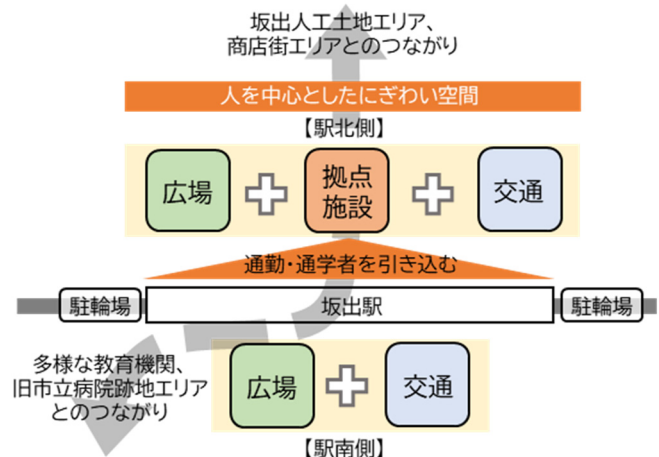
- 坂出駅南側の憩いの空間の創出
- 香風園および市民ふれあい会館と連携した取り組みの展開
- 文教地区に近接しており、市民が成長でき、育てる場の創出

坂出駅前エリア再整備の考え方

駅前空間再編について

「まちのリビング」を実現するために、駅北側と南側で役割分担をおこない空間の再編を図る

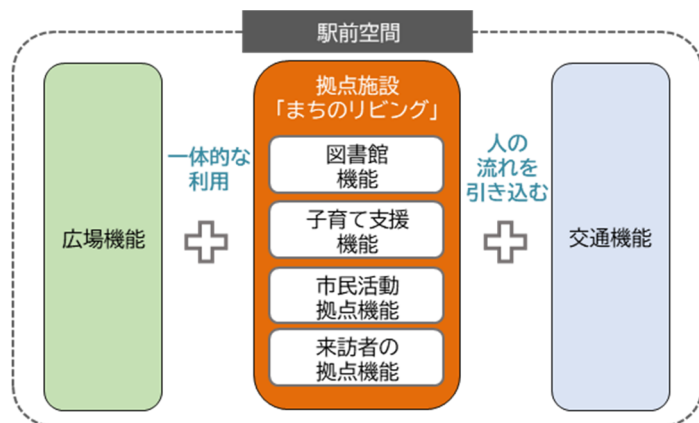
- 駅前空間においては、公共交通等の車と共存しながら、人を中心とした空間へ再編を図ることで、様々な人が心地よく過ごせる「居場所」を生み出し、「歩いて楽しいまち」の中心となることをめざします。
- 中心軸や坂出人工土地等の周辺エリアとの連携や波及効果を生み出すために、既存の駅南側の人の流れを駅北側に引き込む必要があることから、駅北側と南側で役割分担をおこなうとともに、駅北側に拠点施設を整備します。



拠点施設整備について

図書館機能を核とした複合施設とすることで、様々な人が訪れ、活動できる場を生み出す

- 坂出駅やバス等の公共交通を利用する多くの人を引き込み、利用してもらえる場とすることで、坂出駅前エリア内および周辺エリアへの波及効果を生み出す場とします。
- 多様な使い方が可能な図書館機能を核とすることで、子どもから高齢者まで様々な世代にとっての学びの場や高校生が放課後を過ごすことができる場を生み出し、誰もが気軽に立ち寄れる「まちのリビング」と呼べる市民の居場所の実現につなげます。



市民や民間との共創について

そこに暮らす人たちが自らの意思と責任で、地域の姿を考えるまちづくりをめざす

持続可能なまちづくり

- 市民や民間事業者等、多様な主体との連携や協働により、魅力ある持続可能なまちづくりに取り組みます。

市民との共創

- 駅前空間再編や拠点施設整備については、市民との対話やワークショップ等を通じてニーズを把握し、意見を反映するなど、市民と共に検討を進め、将来のまちづくりの担い手やシビックプライドの醸成につなげます。
- 整備完了後も継続的に市民が関わり、コミュニティを育む仕組みづくりをおこない、そこに暮らす人たちが自らの地域の姿を考えるまちづくりをめざします。

民間との共創

- 人々が訪れたい魅力ある場の創出のために、公民連携手法を用いて、民間事業者等の知恵やノウハウ、資源を最大限活用します。

